

繰り返し

1. ツクツクボウシの鳴き

打吹山では7月末から8月初めに鳴き始めるツクツクボウシですが、盆を過ぎると夏の終わりを感ぜさせる声になります。本当は変わっていないのかもしれませんが、出だし、テンポに元気がないのです。早朝も鳴かなくなります。陽が射し始めて暖かくなったころ1匹が鳴き始めると、周りからも鳴き始めます。この連れ鳴きはセミの習性なのですが、時期が違うとやかましく感じないところが人間の感性でしょうか。



「ツクツクボーシ」というフレーズの繰り返し数について、25℃くらいが鳴き始めのようなので気温が影響しているかな、競争して鳴くことで変化があるかなと思い、2回調べてみました。8月17日、気温は25℃でした。単独で鳴くとき、「ツクツクボーシ」の繰り返し数を調べると、6と8回、他個体は17回でした。競合して鳴くときは、13 15 15 15 16 18 18 19 21 23 25 27 28 28 28 30 31 36 39回と同じ個体でも個体間でもいろいろ、その時どきで違うようでした。8月27日は気温20℃でしたが、13 15 21 22 22 28 28 35回と25℃の時と変わりありませんでした。

「ツクツクボーシ」という繰り返しは、初めはゆっくりでだんだん早くなります。この辺りで終わりかなと思ってもなかなか的中しません。最後の「ツクイーヨス」も2～5回の繰り返しがあり、決まっています。驚いた時には、途中で鳴き止みます。一連の鳴きが1セットになっているわけではないようです。

温度が低ければ筋肉が動かず鳴くことができないのですから、繰り返しの回数と要した時間を測定すれば、テンポが気温と関係があるかどうか知ることができるはずです。調査してみませんか。

2. 無限花序

穂のように1ヶ所に花が集まって咲く植物には、有限花序と無限花序があります。茎や枝の先端には分裂組織があり茎や葉を作り出しているのですが、葉になるべき部分が花弁や雄しべ、雌しべに変化すると伸長が止まってしまう。このとき下の脇芽の部分の分裂組織が花に変化すると集合した花になります。先端が最初に花に変わり、下方が次々花蕾になると先端から咲き始め、開花は下へと移ります。この場合を有限花序と呼びます。



中間まで開花
下は結実

一方で、脇芽が花蕾に変わりながら先端が成長していくと上に向かって咲きあがっていくことになります。これを無限花序と呼んでいます。先端が伸び続けていれば花は限りなく咲くはずですが、そうはいきません。穂でなく横に並んだ場合は周囲から咲き始めるか、中心から咲き始めるかという変形になります。いろいろな花を観察して分類してみてください。

写真のクズの花はわかりやすい無限花序です。7月下旬に咲き始めると、長い時間をかけて上に咲き上がっていきます。痕跡が残りますから、何個で終わりとしたか数えてみませんか。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2023)